

障害者雇用分科会における 2019 年度目標の評価について（案）

2019 年度の目標として障害者雇用分科会において設定した年度目標について、当該分科会が実施した評価の結果は、概ね以下のとおりである。

（障害者雇用分科会において設定された年度目標の動向）

○ ハローワークにおける障害者の就職件数について

〔2019 年度目標〕	前年度（102,318 件）以上
〔2019 年度実績〕	103,163 件

2019 年度のハローワークにおける障害者の就職件数は、103,163 件（対前年度比 0.8%増）であり、目標（102,318 件以上）を達成した。

その主な要因としては、福祉、教育、医療等の各分野の関係機関と連携して行う障害者向けチーム支援や、精神障害者雇用トータルサポーター等による専門的な支援等の各種施策で着実に成果を上げたことが考えられる。

○ 障害者の雇用率達成企業割合について

〔2019 年度目標〕	前年度実績と比較して 1.4pt 以上
〔2019 年度実績〕	調査中（2020 年 6 月 1 日時点）

2020 年の障害者雇用状況報告（2020 年 6 月 1 日時点）の結果を踏まえて分析する予定（2020 年の障害者雇用状況報告は年内を目途に公表する予定）。

○ 精神障害者雇用トータルサポーターの相談支援を終了した者のうち、就職に向けた次の段階へ移行した者の割合について

〔2019 年度目標〕	74.3%以上
〔2019 年度実績〕	76.8%

2019 年度の精神障害者雇用トータルサポーターの相談支援を終了した者（13,179 人）のうち、就職に向けた次の段階へ移行した者（10,124 人）の割合は 76.8%であり、目標（74.3%以上）を達成した。

その主な要因としては、求職者に対して、通常のカウンセリングを実施することに加え、

- ・ コミュニケーションスキルの向上等を目的としたグループワーク等を行う就職準備プログラム（2019 年度実施件数 9,686 件、対前年度比 29.1%増）や、
- ・ 適性や能力に関する自己理解を高めるための職場実習（2019 年度実施件数 843 件、対前年度比 3.8%増）

を着実に実施したことが考えられる。